

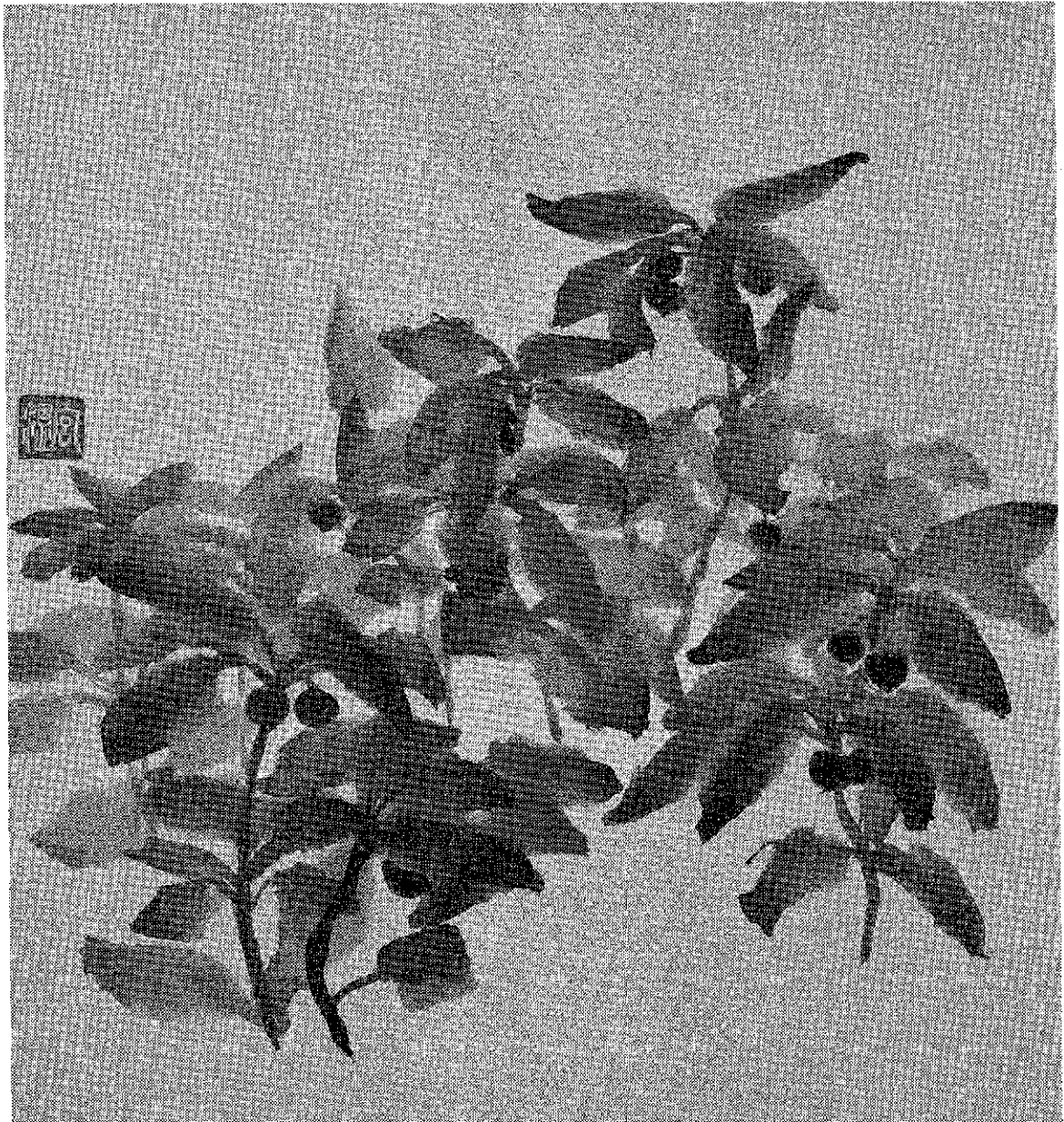
新潟県

公民館月報

昭和59年2月号

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (0252) 24-6075】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一
編集人 事務局長 本田 清
【定価1部 100円 年共・年販 1,200円】



分節

節分と言えば「豆まき」である。年男は盛装をして「豆まき」にかかると。戸を開けはなつて、「福は内、鬼は外、鬼の目玉ぶっつぶせ」(岩船郡朝日村三面)。

「福は内」を先にいうと効果がない(南魚沼郡)ともいう。「鬼は外」は当然外に向ってするが、「福は内」も外側を向いて肩越しに内へ向かって豆を投げる(柏崎市枇杷島)。「福は内」を3回、「鬼は外」を3回、その後用ノ神の棚の前へ行って「エビス火黒ウカノ神」と3回唱えながら豆をまく(東蒲鹿瀬町実川)。東蒲津川町付近では、主人が「福は内、鬼は外」と叫ぶと、他の男がこれに従い、摺古木を振るって「その通り、それもその通り」と続けるという。

新発田市小戸では主人に従う供は、サンバイス(米俵の蓋)を笠のようにかぶり摺古木を腰に差して従ったという。

絵・「藪柑子」堀 温
(堀之内町文化財調査審議
会長)
文・「新潟県大百科事典」
から

公民館施設 国庫補助

財政危機下の内示

七七億八千五〇万円(二四七館)

全公連と公振連の一体応勢による組織をあげての陳情運動には、全国のブロック代表がかけつけ、国立教育会館を運動本部として熱心に展開された。

昨年十二月二日開かれた全国民公連内示では、建設計画を中断しなげ、民館振興大会の決議をうけ、「昭ればならぬ市町村ができることは和五十九年度公民館建築費補助費 必至の情勢である。よって文部省をわたり実施された。

運動本部が設置された国立教育会館には、ブロック代表三千七名が参加、少教精鋭主義で実施された。あたたかな冬の東京には、雪まじりのしんく積雪十センチ。雪まじりの

北風を背に受けながらの陳情風景が展開された。
 国家の財政危機の年として、文部省が大蔵省に提出した即年決額を下廻る八十四億一千五百万円をめざして、議員会館、与野文部省・同文部省調査委員会・文部省・大蔵省などの主要陳情先へ向けて運動員を繰り出した。
 翌二十一日第一次内示額は、施設費で七十二億四千五百円(前年度比二十三パーセント減)の館数に達しないが九二・五パーセントに達するもので、厳しい予算情勢のなかで、止むをえない結果だったといえる。



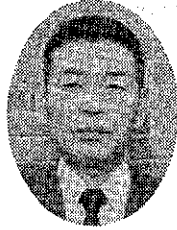
(前年度比23%減という第一次内示に作戦を練る陳情本部)

昭和59年度公民館建築予定市町村(9館)

公民館名	構造	延面積	工事見込額
		m ²	千円
十日町市水沢地区公民館	RC	950	153,900
見附市中央公民館	R・C3	2,000	370,000
黒埼町寺地地区公民館	R・C2	600	90,000
潟東村公民館	R・C2	500	90,000
津南町中央公民館	R・C2	2,000	400,000
柿崎町下黒川地区公民館	R・C2	500	100,000
小出町北部公民館	R・C2	600	108,000
燕市松長公民館	S2	500	80,000
燕市川前公民館	S2	500	80,000



交通事故が毎日のように多発し年々加率的増加の一途をたどっている。特に死亡事故などは、無謀運転から来ていると言



は、警署並みの厳重な取締りにもかかわらず増加の傾向があることは誠に

「社会環境」が17パーセントの順だった。本県では「家庭」が44パーセントで二位、次いで「社会環境」「青少年自身」の

大切なのは家庭のモルラ

中村 鐵 雄

れ過ぎ、道徳観、価値観を失われ、利己主義、個人主義的な言動ばかりが目立ち、民主主義教育のほすなほ、何かは遠くいたせいか、親は子供を生むつばなし、子供は学校に任せきりの関係はきつと解決されるものと思ふ。(黒川村公民館長)

に遺憾堪えない。これも青少年の非行につながるものではないかと思われる。青少年犯罪は、今や国を挙げての社会問題となっている。まず、青少年非行の原因について、総理府が発表した全国世論調査によれば、「家人間専断から経済優先にとらわ

親として小学校入学までは、人としての基本をきちんと養っておかなければならないのに、昨今では、ご飯を食べるにしても、着るに満足もてない子供が増えていると言われている。このような要因が、一層教育を歪め、自由放任となり、教育の崩壊ばかりか、社会全体に悪影響を及ぼしている。非行防止はまず家庭のモルラにあると思ふ。家庭がしっかりし、親子の絆が強く結ばれていれば、非行なみに走るはずがない。家庭・学校・社会がそれぞれの立場で連携を保って世に当れば、現実の問題はきつと解決されるものと思ふ。(黒川村公民館長)



(文教部会日井代議士に陳情する石井会長)



(文教政務調査会で質問に答える森文部大臣)

資料 歡迎

公民館で作成した資料や文芸作品集または館報などを送ることを歓迎いたします。県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思ひます。

投稿 歡迎

感想文でも結構、折にふれて気軽にペンを書かせてください。採用文には粗品を差し上げておきます。

—編集部—

わが仕事はたのし

「寿大学の歌」をレコードに

柏崎市中央公民館が実施して、市民に人気のある「寿大学の歌」をレコードに収録し、市民に配布しようとする。この「寿大学の歌」は、市民に人気のある「寿大学の歌」をレコードに収録し、市民に配布しようとする。

この講座では自治会が中心になって、さる四十九年に校歌と

「寿大学講座」がある。

も言うべき「寿大学の歌」を講座生に公募して

制定し、以て来約十年間合同学習のたひに全書で歌ってきたが、メロディだけではあったところから正式な伴奏をつけようというのが講座生たちの長年の夢であった。この夢が

かなひ先程の合同学習の際に発表会が行われた。

この伴奏曲は、講座生の子息で、東京音楽院の仕事を専門にしておられる方の好意により実現したもので、編曲とその伴奏譜のみならず、みんなが歌いやすいようにと、二十一人編成のプロのオーケストラでの演奏をカセットテープに取って送ってくれたもので、発表当日は市長からの感謝状と自治体からの記念のフロンストロフィの贈呈も行われた。

公民館番頭日記

われら寿大学生
三原戸ありし陳屋あと
港も栄ゆわ郷土
温故知新の心持で
自治向上にいそいせし
われら寿大学生

わたくしは今次の光景を想像しながらむと微笑している。

孫に頼んでこのレコードを聞かせてもらひながら「これがオシイチャンたちの行っている大学の歌だ。」と孫たちに話しかけている講座生たちの姿を。

（柏崎市中央公民館
参事兼事務長・徳岡助夫）

◎

寿大学の歌

作詞・作曲 前川慎治

編曲 星野知信

一山ろわしく海清く

文化花咲く柏崎

ここに生い立つ喜びに

年も思わす若き気で

われら寿大学生

二いらかは高く明るくて

親しな衆う公民館

学びの道に果てなしと

六十路も古橋もむつま

じく

経営の課題と展望(1) 第6回 全国公研集会記録から

く中で、大きな問題として民間委託、事業団設置、教育産業が全公連の大きな課題としてとりあげられることになるであろう。

生涯教育体制の中で公民館の位置付けをはっきりさせるため、公民館自らと行政当局が基本的な提言をもつことが大切であろう。

3 協議内容

(1) 公民館のあり方と民間委託

公民館は住民の要望を把握するのが大事な任務である。地域性やニーズにより、現地にあった公民館の処方箋づくり、生涯教育計画の中で公民館づくりを行っていききたい。そういう中で、安易に都市化に伴う行政改革の名のもとに公民館は金のかからぬ民間委託に市町村は苦慮している。社会教育は困窮している。社会教育の整合性をはっきりさせることが重要。民間委託は絶対反対、企画運営は公民館で実施すべき、企業は利益追求に主眼をおいている。本来の公民館活動は住民のニーズに応えながら実施すべきである。

一助言者一

現在、生涯教育の概念が不明確である。公民館が、中核教育機関として位置づけるための積極的役割、原動力による行動をおこすべきである。公民館の見直し等について論じられてきたが、その中で、社会教育体系の中で公民館の役割の確立を行政(社会教育)の中でしっかり確立していくことが大切である。

住民のニーズをどう集約し、どう反映していくか、公民館像を明らかにすることにより、民間委託の問題が解決されるのではない。

生涯教育が学習、教育であるならば、文部省が積極的に動いて各省との連絡を図り、広い意味での生涯教育システムの中での公民館の位置付けがなされるべきである。

(2) 民間教育産業と公民館の役割

公民館で実施しているような学習講座が民間で数多く行われている。公民館事業を見直すことが必要ではないか。公民館事業の組織化、体系化を考え、あてはめ、公民館はどう住民のニーズに応え、本来の目的を達成すればよいか考える。公民館は教育的見地から事業を実施している自負がある。企業とは当然一線を画している熊本では生涯教育懇話会を設け、民間教育産業学識経験、公民館長等の構成で連絡協議の場を設定したいと考えている。その中で住民のニーズにあった事業を展開したいと考えている。

一助言者一

都市化の波がおしよせている現在、生涯教育の中で何をするのか、公民館が他の企業産業と連帯協調するところに公民館の位置付、新しい公民館づくりが明確になる。広い意味で教育産業、学校、各種教育と生涯学習をどう考えていくかにより公民館の位置付けをはっきりさせるべきで、他の組織と連携を図りながら、公民館がリーダーシップを握り進めるべき課題と思われる。

(3) その他(職員、服務及び管理運営)

ア 公民館の基準づくりについて、人的配置、予算配置の適正規準がほしい。

イ コミュニティセンターと公民館の役割。市長部局でも公民館事業的なものを実施している。行政機関と教育機関の方向が変わってきた。公民館の対処の仕方はどうあればよいか。

ウ 館長の決裁権の明確化。あるべき姿は。

エ 学級は国からの指導(希望をとったのち)が多い。そのため、20~30万規模の学級における自主管理方式を検討している。

オ 職員の専門性に立つ人的整備の充実が図られるべきだ。

カ 都市化に伴う委託の関係のほか、嘱託職員化、行革による職員の減、中央公民館と地区公民館職員の専門性に伴う職員のあり方、事業のあり方、又地区館への中央館からの出稼き化など多様な課題が山積みしている。

キ 公民館は青少年、成人、個人教育の場である。他社会教育施設と公民館はどうあるべきか六研究、提案がなされても実現性がうすい整合性といっても仲々実現されない、何度もうり返してさげんでいきたい。

ク 小学校区単位は公民館の活動範囲の場として基盤崩壊のおそれがある。中学校区を活動の場として考えられないか。

4 要望事項

- ・ 人づくりは公民館であることをふまえて、社会教育の一層の充実を期す方策の樹立(国に対して)
- ・ 上記の早期達成に向けての運動の展開(全公連に対して)

5 助言者のまとめ

・ 生涯教育とは何を求めて進むべきか、国際的に通じるものが確立されていない。もっと広い意味で生涯教育をとらえていくことが大切である。

・ 教育産業、いわゆる学校教育、そして生涯学習を各県市では行政側がその手だて方策なりを確立し、公民館の位置付けをはっきりさせていくべきであろう。その際に、行政側にまかせる多ではなく、協力組織の会を中心に公民館がリーダーシップをとりながら、県段階にあたっていくことが必要である。

・ 行政として生涯教育はどうあるべきか、体系化していくことが重要、そのとき行政の役割と教育機関をはっきり位置づけることが大切である。

・ 現状として公民館はいろいろな活動をしているが、国県を問わず一番よく働いているのは、公民館職員と思う。民間委託等の解決のためにも、職員の勤務体制の変更、住民の協力団体組織化などを図りながら、一般住民の理解を得た動きをするべきであろう。

都市における公民館の管理

第6回全国公民館研究集会在昨年岩手県盛岡市で開かれ、このたび分科会記録がまとまった。この研究集会では、公民館をめぐる諸問題をふまえ16分科会が設定され、熱心に討議がくりひろげられた。ここに何容の一部を要約して紹介していきたい。

司会者 大阪府公民館振興会長 正田吉次
 助言者 元文部省社会教育局長 吉里邦夫
 基調発表者 1. 北海道深川市中央公民館長 渡辺優
 2. 神奈川県平塚市中央公民館長 大胡政男

1 基調発表

(発表1) 都市における公民館の管理運営の課題と展望

(1) 現状と課題

38年合併以来、公民館の建設に力をそそいできた。現在21館2分館を有し、全道水準を大巾に上廻る高い水準となっている。しかし、施設規模は200㎡～2,000㎡までさまざまな施設で町内会館程度の施設である。さらに木造で老朽化が著しい中で公民館活動を行っている。

また人口については合併時38,000人であったものが現在34,000人に減少し、地域によっては20%以上の市街地の過疎化、それに伴う農村部への人口の移動といわゆるドーナツ化現象を呈している。

課題として、利用の増加と施設の老朽化、経済状況の変化、生活の近代化により、公民館エリアの体系の見直しを図ることが急務となっている。

(2) 施策の体系

20年前につくられた公民館エリアは前述のごとく時代の変化により実態に印さないものとなってきており、望しい公民館経営の見直しにせまられている。のぞましい公民館エリアの体系づくりとして

- ア 小学校区単位の設置
- イ 中学校区単位の設置
- ウ 上記を併用した設置
- エ 生活態形と人口密度を考慮した単位の設置

これらを地域実情にあわせて公民館エリアを再整備することが必要である。今ある施設を分館として活用する考え方もある。又、町内会館的公民館は自治公民館として地域活動の拠点と考えてみたい。整理することにより公民館が少なくなり地域が広がる。

職員については、中央公民館以外は専任はいないので、今の民間公民館長、主事制度から、専門職員の配置を行い、地域活動を行なえるよう拠点づくりを行いたい。それにより公民館サイドの活動と共に住民サイドの活動の強化が図られるのではないと思われる。

(発表2) 都市における公民館の管理経営の課題と展望

(1) 本市における公民館の現状

将来展望の中で教育施設最重点がさげばれて32年以来毎年1～2館建設されてきた。

(2) 公民館の設置基準

対象区域は小学校区単位に地区公民館を設置することで56年までに20館が完成。規模は340㎡～600㎡までの地区館。150人程度のホール、和室、実習室等がある。

57年人口急増地域の小学校区に3小学校を建設する必要にせまられ計4つの小学校数となる。それに伴い、2小学校区対象館として1,100㎡の中規模館が建設された。(今後モデル館として生かされる)

(3) 今後の展望と問題点

- ア 複合施設、屋内体育館設置が要望されている。(コミュニティ論の台頭)
- イ 職員体制(非常勤職員含め1館平均4名)の検討と公民館委託の検討が市よりせまられている。
- ウ 木造公民館が改築の時期にきている。
- エ 中央公民館の維持に金がかかる。将来事業団的組織の検討にせまられている。

2 質疑応答

(質) 主事を嘱託とし、さらに民間委託ということにならないのか。教育委員会関係者の考え方はどうか。

(答) 教委の立場は弱い、内部動揺中である。社会教育のあり方堅持と時代の推移で条件付賛成の考えもある。同時に社教、公運審の中で検討中でもある。

(質) 公民館の利用について、公民館事業、社会教育団体(PTA、子ども会、青少年育成団体)の利用も有料か。

(答) 主催事業は条例の中で無料となっている。他は減額であり無料ではない。

(質) 委託方式を実施するとしたら必要経費は出す予定があるのか。公民館は住民のニーズにこたえ、いわゆる要求課題に対応すると同時に市民としての必要要求課題解決策はどうするか。

(答) 委託方法については検討中である。嘱託か全面委託かはまだ踏み切ったわけではない。賛成しかねる立場で苦しい。いずれ公民館活動を大事にしていきたい。

(質) 環境問題と自治組織とのちがいがどうか。

(答) 対象面積は同じであり、住民が増えたので対象が変わった。面積は広がらない中で数だけ増えたので、倍規模の公民館を建設した。地区の自治組織は連帯感を損うことのないように一体化して存続させている。組織を定着させようという意識が働いて良い方向に向っている。

一助言者一

発表都市は実態は異なるにしても、都市化の波がおしよせ、悪影響を及ぼしかねない状況にみうけられる。深川市では自主講座を極力おさえ住民サイドの活動として公民館の位置付がうかがわれる。指導者としての公民館活動に大きなウエートをもたせている点は非常に地についた活動である。

今後20年後の21世紀に向けて変ぼうする社会が実現してい

新生公民館繁盛記

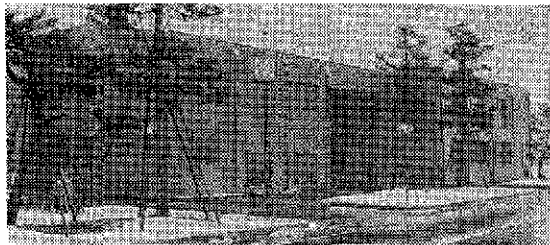
(33)

特色を盛り込んだ館

プラネタリウムに人気



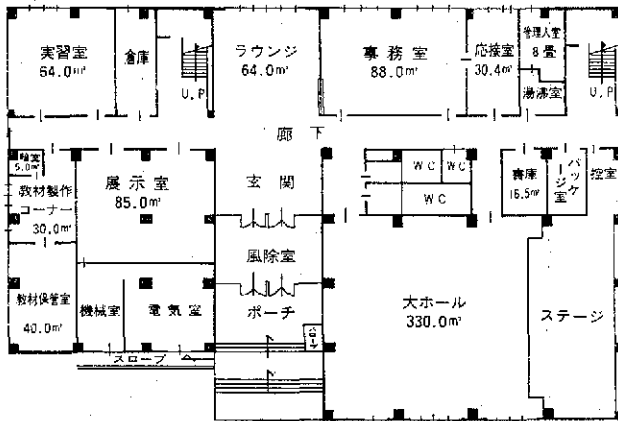
(星空がドームいっぱい広がるプラネタリウム)



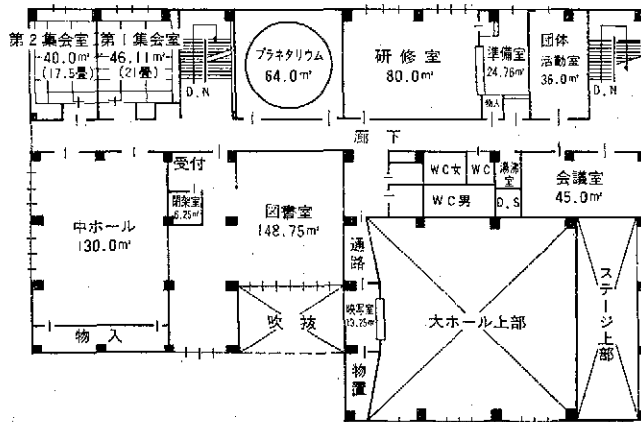
(気軽に利用できるよう配慮されている公民館全景)

平面図

1 階



2 階



〔堀之内町のあらまし〕
 当町は日本でも有数の養蚕地帯として知られる北条沼郡内に位置し、冬期間は毎年一〜三メートルの積雪をみることであり、人口約一万六百人、世帯数約一千五百の山間農・商・工業の町です。
 〔公民館のようす〕

当町は本館のほか、山学校区単位に七つの分館が設置され、非営勤の分館長以下、副分館長、書記・会計・審議員などが委嘱され、建築物が接隣となり、新築移転

〔建設前の旧公民館〕
 旧堀之内町公民館は、昭和四十二年に総費一千二百五十万円で建設されたもので、以来十七年間社会教育の拠点として使用されて

来ましたが、本館ゆえに老朽化が激しく、また、移り変わる時の流溝・回・遺跡からの出土品、等を

〔堀之内町教委 社会教育課長 上村輝三〕

公民館は花ざかり、これまですでに三十八館の公民館が登場。好評をいただいています。これからもどしどし紹介します。

〔新公民館の特色〕
 当公民館の特色は、次代を担う青少年に夢を持たせるべく、県内六番目と云われるプラネタリウムを設置したことです。

その他、一階には閲覧室を兼備えた図書室も設けられ、小中高校生をはじめ、一般の人からも多数利用されています。

れ、各分館ごとの特色ある活動が行われています。
 旧堀之内町公民館は、昭和四十二年に総費一千二百五十万円で建設されたもので、以来十七年間社会教育の拠点として使用されて来ましたが、本館ゆえに老朽化が激しく、また、移り変わる時の流溝・回・遺跡からの出土品、等を多数の利用をいたたいたいです。また、一階に展示室を設け、よう配慮されています。

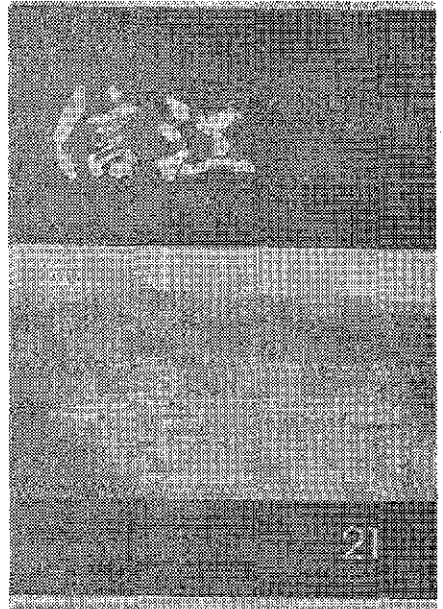
同じく一階には青年団、婦人会等の団体が自由に使用できるよう、団体活動室も設けられています。新公民館の玄関を入ったところにはテーブルと椅子を備えたラウンジがあり、文字をおり地域住民の茶の間として気軽に利用できるよう配慮されています。

上村輝三

公民館の文芸誌

公民館を軸として、地域に根ざした文芸活動がさかんにおこなわれています。

編集部に届けられた公民館関係文芸誌の中から、今月は十日町市吉田地区公民館の「信江」からの随筆を紹介いたします。



作品集を歓迎

公民館で作成した文芸作品集や館報、または広報案内資料などをご恵送ください。毎月上記の欄に紹介してまいりたいと思います。

プロフィール

下田村中央公民館・社教主事
坂内 秀之氏(27才)

県下でも稀な広さ
と人口二万三千を有する下田村。公民館主事の任事も、また広範にわたっている。その中心的役割を果す、坂内秀之社教主事もその一人である。

彼は、五十嵐川の清らかな支流水の土地で育ったせいか、牛乳、素直で、明るく、まじめな好青年である。昭和四十九年高校卒業と同時に用業課の若手として活躍五年間、五五年公民館主事となる五六年国立社研において社会教育主事の資格を取得し、主事としての専門性を身につけ、実践が始まるのである。

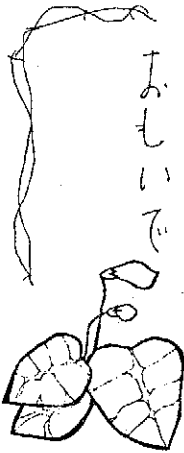
主催行事には、新鮮なアイデアを生みだした青年講座、リーダー養成、幼児教育講座等々、関係機関・団体との連携を図り、きめこまかな計画、魅力ある事業運営を試み、着々とその実績をあげている。

また、青年団活動のマンネリ化の脱皮と活性化を図るため、団主催による奉仕活動の実施、冬冬の賞讃と成果を収めたのであるが、彼等の自主的な行動もさることながら、彼の側面的な協力とアドバイスも見逃すことはできない。

彼は、なおこれからの公民館活動を、明るく地域づくりと青年の健全な育成を強く結びつけてゆきたいと意欲をもちしている。

彼は、まあ同僚からは「坂内さん」と親しまれ、これが公民館の出発点だと、人と人とのかわりあいを大切に、また尊重しなければ……と云う。酒席の歌管も仲々のもの、ややオンチに近いが演山披群、心なごまる雰囲気につつまれてしまふ、彼の天性の人情の良さは、

家庭には、両親と昨年むかえたささしい奥さん(保育所勤務)、仕事の性質上、土日勤務や帰りが後おそくなることには、そのせいか一ツ気になるとは、二世のまごうた母にすぎず。今日もまたささせと彼は活躍中。(下田村中央公民館長 松井秀孝)



平和と花

上村 千恵子

まごうた母にすぎず

今私が想い返してはなつかしむ子供達はもうありません。その頃、人々や、花畑と子供の頃の遊歩の「家の光」も本家の廊下で見るのかすかすと、書架探すことのできた。お母は赤い色に就職をした頃の事です。赤い色の衣類は身にまとい、たてななく縁起になりました。

側の家畜小屋に白いアンゴラ兎と、乳用の山羊が飼育されていて、若い衆も働いていて、栽培を出荷するためにチューリップの花畑を湛川作っている。ほかに藪敷の畑には色とりどりの、シヤクナゲ、バラが咲き、玄関の前には大きなバラの花のアーチも作られ、この花の下を私達は飛び回って遊んでいた。

この近所の子供達は見聞しものより、洗い物と言って石段を下りて、お花畑の見えるこの道で遊ぶのが大好きでした。男の子をの手に、女役割りをしていたようでした。夏になると、お花の肥料をさうた。赤い花、黄色の花、ヒヤシンスの紫は昨口のことのように忘れられないキレイな色でした。小さい子供達には大きすぎような大輪のチューリップの真赤の花はたまにみえます。

この近所の子供達は見聞しものより、洗い物と言って石段を下りて、お花畑の見えるこの道で遊ぶのが大好きでした。男の子をの手に、女役割りをしていたようでした。夏になると、お花の肥料をさうた。赤い花、黄色の花、ヒヤシンスの紫は昨口のことのように忘れられないキレイな色でした。小さい子供達には大きすぎような大輪のチューリップの真赤の花はたまにみえます。

あの頃のこと

日記を読み返す (6)

松本 十三雄

線香花火

昭和三十三年一月二十一日午前
十時、東京都大田区民会館大ホ
ルの機帳がするりと上がった。
「視覚教育三十年記念研究大会」
（倉視連主催・三日間）の幕明け
なのであった。

このとき、私はステージの上
にいた。この大会を記念した「視
覚教育基礎記録コンクール」があ
り、これに応募した作品が社会教
育の部に入選して、この開会式の
日程の中で表彰をうけることにな
っていたのである。教入の入賞者
と共に、文部大臣を初めとする来
賓席の後に並んでいた。

壇上から見る客席の眺めという
のは仲々いいものであった。式次
第が進行する間、私は一着し来て
この会場にいる皆の連れを眼で探
した。相沢宏さん、大島順平さん
鶴巻広喜さんと昨夜の夜行列車が
一着だった。五十嵐久美さん、山
本文一さんの姿が見えた。千近
い座席である。簡単にむつまじ
りな。

ここで、わが相棒は眠って
いるではないか。相沢さんは何も
たれに頭を載せて天を仰いでいる
し大島さんは頭を前に垂れ、放し
である。

矢張り、という思いもないで
はなかった。私達は昨夜から一睡
もしないでこの会場へ来たのだ。
私も眠かったが、壇上にいる緊張
が睡魔を追い排つてくれた。
客席にいる彼の人達が、程よい暖
房と退屈な開会式行事で、眠
りに落ちては無理なかった。

何故一睡もしなかったのか。し
なかつたのではない、さきられな
かつたのである。原因は大島順平
さんであった。

大島さんは小学校を卒業すると東
京へ等職人の修業に行った。徒
弟制度の厳しい頃で、ノウノウと
した生活ではなかつた筈である。
兵隊は関東軍で、ハルビンの特務
機関にいた。何をしたかを興味本
位で訊くことはしなかつたし、自
分の方から話すこともなかつた。
だが、これだつて安泰な暮らしで
はなかつたろう。終戦がハルビン
まわりの話。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

だから当然のようにシベリヤへ送
られ抑留生活をしている。此処で
は奇酷という言葉以上に厳しい生
活をしたに違いない。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

大島さんが頭から毛嫌ひしたも
のに「横文字」がある。社数事
講習で、主任教授だった平次藤原
生に「全部日本語で喋ってもらい
たい」と註文をつけたという話は
有名である。だからという訳でも
ない。

俺はダメのがんだ、の一点張りで
あった。

それは「線香花火」という芸で
あった。線香花火がマッチで点火
され、シュッシュと散りす火火
いさあか。

それは「線香花火」という芸で
あった。線香花火がマッチで点火
され、シュッシュと散りす火火
いさあか。

それは「線香花火」という芸で
あった。線香花火がマッチで点火
され、シュッシュと散りす火火
いさあか。

どこまで、全身を使つてする「形
骸模写」なのである。何処で覚
えたか、一分とからぬ時間なの
ものであった。

千、万の人を振り仰がせる打ち
揚り花火の華やかさはない。だが
夏の風物詩として欠かすことので
きない繁華だんらのシンボルと
しての線香花火、公民館の営みと
いさあか。

千、万の人を振り仰がせる打ち
揚り花火の華やかさはない。だが
夏の風物詩として欠かすことので
きない繁華だんらのシンボルと
しての線香花火、公民館の営みと
いさあか。

千、万の人を振り仰がせる打ち
揚り花火の華やかさはない。だが
夏の風物詩として欠かすことので
きない繁華だんらのシンボルと
しての線香花火、公民館の営みと
いさあか。

募集 (表紙絵) 色紙
公民館の絵画教室での
傑作、利用グループの中
で絵をよくする人の作品
など、なるべく多量に
で書かれたもの。
絵の内容は「名勝、旧
跡、文化財」などのほ
か、表紙にふさわしいも
のであればなんでも結構
です。説明文は四百字程
度をお願いします。

あとかぎ
朝のめざめとともに始まる雪
との戦い、「寒気も狂うの
はやめてくれー」と大声で叫
びたくなるような連日の冷え込
みの朝の真冬日。
列車の運休、ダイヤの混乱。道
路の交通渋滞、厚い雪の降。そ
れでも、越後人は持ち前の忍耐
強さで、このとつともない大雪
然の雪を克服し、春を待つので
す。

二月十三・二十四は関ノ
口公道通車会がひかえていま
す。県公道も年度末をひかえ
何かと多忙な日が続きます。
(照)

石井耕一著

おしゃべりはダイヤモンド

市長という激職をこなし、かつ
気鋭のエッセイストとして知られ
る、わが県公民館連合会会長の石
井さんが「おしゃべりはダイヤモ
ンド」というしゃれた題名の本を
出版された。

内容は、少年時代から
青年時代のこと、兵役時
代のこと、行政マンとし
ての日常活動のなかで考
えたことなど多様だが、
一貫して流れている豊か
な人間性と深い洞察力
が、てらいのないわかり
やすい文章に文えられ読

・ 本会であつせん
・ 版価 一冊一、五〇〇円
(送料別)
・ 申込先
〒91 新潟市川端町2-1-9
県林業会館内 県公民館連合会
TEL 〇二五二二四一六〇
七三